

## 第2回みやぎ観光振興会議仙台圏域会議 委員等発言要旨

令和4年1月18日（火）午後1時30分  
仙台合庁1001会議室

### 議事（1）観光戦略プラン（中間案）について 事務局説明後

#### 早坂委員

- 県内で国際会議等の人が集まる会議やイベントの開催に合わせて、観光業界に情報を発信してもらい、観光地をめぐってもらえるような連携を図ってはどうか。

#### 事務局

- 県内で行われる会議の際に観光の発信をしているが、大規模な会議、イベントは仙台市が誘致しているので、連携して情報発信していきたい。

#### 富谷委員

- 様々な観光に関するコンテンツがあるが、点だけの整理では足りず、それらをどのように繋ぎ、楽しんでもらうのかというところまで考えていく必要があると思う。
- プランにおけるターゲティングやペルソナ設定ができれば、より具体的になっていくのではないか。

#### 大宮司委員

- 観光関連産業では、実際に観光客と接する人が経済的に困窮しているため、経済的・精神的なフォローもプランに入れていただくとよいのではないか。
- 観光需要が回復しても、観光関連産業は雇用面で厳しい状態が続くと思われるので、その対策もプランに入れていただくとよいのではないか。

#### 島谷委員

- プランにあらゆる分野のことが網羅されているが、目標や宮城県の観光の姿を分かりやすく打ち出し、ターゲットをはっきりさせていくと、多くの方に浸透していくと思う。
- このような時期だからこそ、思い切って宮城県ならではのプランを考えてみてよいのではないか。

#### 事務局

- 宮城県内は観光資源が多彩であり、それぞれの観光資源、観光施設、圏域によっても異なるターゲットを持っている。

- 県全体として大きなターゲットとしているのは、東アジア地域のインバウンドと教育旅行の2つであり、今後プランに宮城らしさを出していけるようにしていきたい。

#### 鈴木委員

- 昨年10月以降、一番動いた団体が教育旅行であり、北関東を中心に宮城県に来ていた。交流人口を増やすためには、学校のプログラムで教育旅行に行くところを攻めていくのが有効な方法だと思う。

#### 小松委員

- 昨年の秋に感染者数が減り、最初に動いたのが教育旅行で、今まで宮城県には来ていなかった地域からたくさん来た。観光振興の一つの軸として教育旅行は大切にすべきだと思う。
- 宿泊客の主流は2人連れや家族連れであり、最も親しい人、信頼できる人と一緒に旅行するのが圧倒的に多い。しかし、そういった宿泊客も今回のオミクロン株の感染拡大で大分減っており、今後どうなるのか不透明というのが旅館業界の現状。

#### 加藤委員

- 団体で今、ターゲットにできるのは教育旅行、修学旅行。利府町には県の総合運動公園があるので、ターゲットとしてスポーツ団体も受け入れしていきたい。
- 個人の宿泊客に関しては、2人連れ、家族連れが中心になっている。

#### 林委員

- 県内の人の約半分は宮城県を観光地としてよく思っていないと考えているが、地元の人が自分のところをよく思わなければ、観光誘発には繋がらないので、その認識を変えていくことがこの機会にやるべきことと思う。
- 震災遺構は宮城・福島・岩手というエリアに限定されており、名取の閑上や、現在開発されている仙台市沿岸部は、面白いエリアになると期待できるので、そのエリアが発展してもらえるように期待しているエリアとしてプランに歌い上げていくのも面白いのではないかな。
- 一番人口の多い仙台圏の方々に、県内の魅力を知ってもらい、発信してもらおうといった将来に繋がるようなサイクルができればいいと思う。
- 教育旅行に関連して、宮城県に若いうちに1回でも来ていると、大人になった際にまた来たいという気持ちになるのではないかな。修学旅行の学生は、将来のお客様になるという観点から大切にしなければならない。旅行もモノからコトと言われているが、その先の「心」というところまで繋げた観光地に宮城県がなれば、観光客にまた行ってみたいと思われるのではないかな。
- 仙台圏には専門学校が非常に多いので観光関連産業の将来の担い手の育成・確保のタ

ーゲットとして、当該学校を支援していただけるとありがたい。

- スポーツイベントの誘致、コンサートといったようなイベントの誘致も地域活性化には有効だと思う。

#### 村上委員

- 昨年5月に観光交流ステーションができたが、最近では富谷市のことを知らない人たちにどうアピールして、満足していただいて、地域の魅力を発信していけるかと考えて実践している。そういった気持ちが伝わって、地域住民の方々も巻き込みながら発信していけたらと考えている。

#### 江口委員

- 昨年12月途中で、宮城宿泊割キャンペーンが延長されるということになったが、それを知らない利用者が相当数いるのではないかと考えている。しっかりと利用者に伝わるような仕組みづくりをしていただけると、なおよいキャンペーンになると思う。

#### 事務局

- ご意見として検討させていただきたいと思う。

#### 鳴原委員

- 多賀城市観光協会では、地域の子どもたちに、古代米を作っているとか、自分のふるさとは城があったといった、観光資源があることを伝えていく活動をしていた。
- 現状、バス会社では観光バス事業のみだとリスクが大きくなり、観光事業も展開しつつ他の事業も模索している。旅行代理店からは事業が難しいという話を聞いたので、他の事業者とも一致団結して新しい形の観光に対応していかなければ生き残りはできないと考えていた。

### 議事（2）圏域の施策の方向性について 事務局説明後

#### 富谷委員

- 塩竈市は内陸部に行くとなかなか新しい団地があるが、中心部でやっているイベントに参加してもらえないのが課題と思っている。
- 自分たちが伝えたいものや楽しいと思うものにプラスして特長的なものがないと、観光客への訴求は難しいと思っている。その町に何か特長的なものがあるからこそ、様々な人が来るようになると思うので、プランにはそういった視点も落とし込んでいただくとよいのではないかと。

#### 事務局

- 仙台圏域は、県南浜街道、仙塩、黒川と3地域に分かれており、どのようにまとめていくかが課題と思っている。
- 点の状態はあるが、それをどのように線もしくは面で結んでいくのか、どのような形で連携するか、観光関連事業者、市町村と今後うまく連携して行ければと思っている。

#### 早坂委員

- 針葉樹のところは日が差さないので雪が全然溶けない。みやぎ環境税を活用した里山の森林伐採、除雪の費用削減にも繋がるので活用してほしい。
- 既存の観光地ではない地域をこれから観光資源化、開発していくにあたっては、当事者をどのようにやる気にさせるかが重要であり、地域の人の意識改革から始まらないと地域の活性化は難しいと感じている。

#### 大宮司委員

- 県の教育の部署と連携して、県内の小学生、中学生の校外学習などで、観光産業の見学をしてはどうか。子どもたちに経験をしてもらうためのバスツアーをやってもらえるとよいと思う。
- 域内の小学生、中学生にアプローチすることで、やがてその子どもたちが情報発信をしてくれるようになるのではないかと。

#### 事務局

- 学校のカリキュラムの中で何かをやってもらうことには難しいところもあるが、地域の観光産業を見てもらいたいというのは、何らかの機会に教育委員会に伝えたいと思う。

### その他

#### 鳴原委員

- 今回、ペーパーレスでiPadを利用して会議参加させていただいて非常に良かった。さらに発展させてZoom, teamsを使うことも検討していただければと思う。

#### 小松委員

- SDGsは世界的に盛り上がっており、第5期の戦略に、環境にやさしいという視点も観光の切り口として取り上げていただきたい。

- 45号線は、トラックの往来が非常に多く、三陸道を松島海岸あたりから無料にしてくださいと交通渋滞の解消に大分役に立つのではないかと。
- 仙台市内の渋滞がひどく、目的地までの時間が計れない、松島エリアの渋滞が非常に激しくて、思い通りに旅ができないという声があるため、観光客の移動手段も考えていただきたい。

#### 事務局

- 交通問題は今すぐ回答をすることは難しいが、課題があるということは認識しているため、長期的な課題ということでご理解いただきたい。
- SDGsに関連したところとしては、今回のプランの中にも地域住民による自然環境保全の要素などを書いているが、今後さらに深掘りさせていきたいと考えている。
- 教育旅行についても、SDGs・探求学習特化型プログラムというものが一つの大きな特徴となっており、きめ細かいサポートを行っている。